

尼崎市立歴史博物館第16回企画展 戦後尼崎の映画・演劇

銀座
ハ水近叶若本
ナ谷藤 尾郷
八美 轟夕起子
重喜 轟夕起子
文次 轟夕起子
子子 轟夕起子

総天然色
映大画映

監督 瑞穂春海
おもしろく、アツちゃん一家の笑い、アツちゃん一家の笑い、アツちゃん一家の笑い

25日 躍進 尼松 (48)

TEL 0261

尼松(尼崎松竹)のポスター 昭和36年(1961)

尼崎労働者映画協会 4周年を迎える際
ニ崎労働者映画協会の会報「尼崎映画週報」

昭和31年(1956) (京都大学人文科学研究所蔵・画像提供)



平成23年(2011)に尼崎市立文化財収蔵庫(現尼崎市立歴史博物館)の玄関で行われた映画「ALWAYS 三丁目の夕日'64」のロケのセット。企画展では、玄関回りに設置された「凡天堂病院」の看板の实物を展示します。

尼崎労働者映画協会の会報「尼崎映画週報」
昭和31年(1956) (京都大学人文科学研究所蔵・画像提供)

尼崎市 第十回 勤労者 演劇競演会
とき 3月21日(金) 9時
国際演劇の月
とろ市立中央公民館
入場無料
但し入場券は市社会教育課にて3月10日より交付します。

主催 尼崎市



昭和27年(1952)に尼崎市立中央公民館で開催された第1回尼崎市勤労者演劇競演会のポスター(左)と、翌年に開催された第2回尼崎市演劇競演会の出演者入場証(上)

観覧無料

令和8年(2026)1月10日(土) ~ 3月29日(日)
開館時間 午前9時~午後5時(入館は午後4時30分まで)
休館日 月曜日(ただし祝日の場合は開館し、翌日が休館)
会場 尼崎市立歴史博物館 3階 企画展示室

戦後の尼崎の映画と演劇の歴史を紹介する企画展です。映画では、尼崎に所在した映画館・劇場を網羅的に紹介し、京都大学人文科学研究所蔵資料等により尼崎労働者映画協会の活動を紹介します。また、尼崎でロケが行われた映画の紹介も行います。演劇では昭和27年(1952)に第1回が開催された尼崎市演劇祭の歩みを紹介します。

映画「あまろっく」市民上映会
令和6年(2024)公開の尼崎を舞台にした映画「あまろっく」を、全尼にあまろっくを観てもらふ会との共催で上映します。当日はゲストのトークも予定しています。

水曜歴史講座 受講無料
日時 1月14日(水) 午後2時~4時
演題 尼崎の劇場・映画館の歴史
講師 西村 豪 (当館認証アーキビスト)
会場 当館 3階 講座室
申込 事前申込不要、定員当日先着 80名

ギャラリートーク 参加無料
企画展会場で主な展示資料を担当学芸員が解説します。
日時 1月10日(土)、2月1日(日)、2月21日(土)、3月7日(土)、3月21日(土) 各日午後2時~3時
会場 当館 3階 企画展示室に集合
申込 事前申込不要 定員当日先着各日20名

日時 3月15日(日) 開場は各回20分前
1回目 午前9時30分~12時30分頃
2回目 午後1時45分~4時45分頃
会場 当館 3階 講座室
定員 各回80名
会費 1,000円(保護者同伴の場合高校生以下無料)
申込 電話・FAXで歴史博物館まで
1月6日(火)から先着順受付

〒660-0825 兵庫県尼崎市南城内10番地の2
電話 06-6489-9801 (文化財担当)
FAX 06-6489-9800
電車・バス…阪神電車尼崎駅から南東へ徒歩約10分
自動車…玉江橋線開明橋交差点から東へ約500m
隣接する市内域内駐車場(有料)をご利用ください

主催 尼崎市教育委員会・京都大学人文科学研究所
協力 一般社団法人あまがさき観光局



尼崎の映画館・劇場

尼崎では、大正9年(1920)に最初の映画館が開設され、昭和17年(1942)には10館まで増加しました。終戦時には3館まで減少しましたが、戦後復興・高度経済成長期に急増し、昭和37年(1962)には37館まで増加し映画最盛期を迎えました。家庭にテレビが普及すると映画館は減少に転じ、一時は2館まで減少しましたが、平成21年(2009)にシネコンがJR尼崎駅前に進出しました。尼崎における映画館と劇場の歴史を、当館職員の綿密な研究成果に基づき、網羅的に紹介します。



第一・第二新花月チラシ 昭和30年(1955)



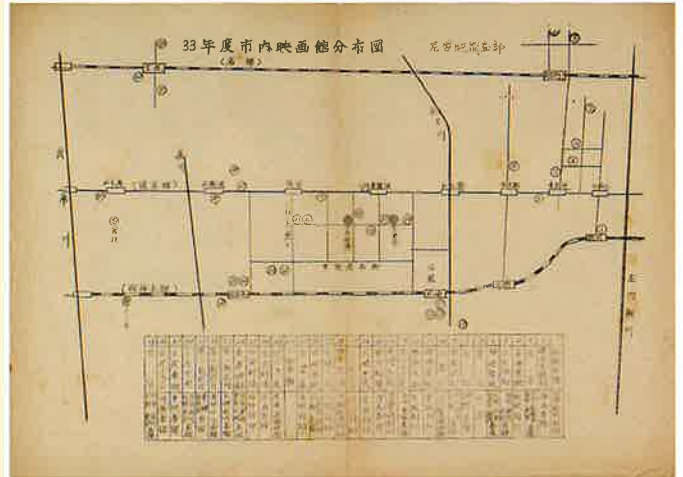
松映ニュース 昭和27年(1952)



塚口3館スクリーンニュース 昭和33年(1958)

尼崎労働者映画協議会の活動

戦後、労働者の文化活動として映画サークル運動が盛んとなり、尼崎でも職域での映画サークルが多数設立されました。昭和28年(1953)には尼崎労働者映画協議会(略称:尼労映)が発足し、同協議会では機関紙を発行し、作品紹介・批評や市内映画館の上映プログラム等を掲載し、会員への情報提供を行いました。また、提携映画館では会員証提示による鑑賞料金の割引を行い、最盛時には会員数2万人を超えたといえます。戦後復興期から高度経済成長期に活動した同協議会について、当館と連携協定を締結している京都大学人文科学研究所所蔵資料等により紹介します。



尼崎労働者映画協議会調査部が作成した、昭和33年(1958)の尼崎市映画館分布図。33館が記載されています。(京都大学人文科学研究所所蔵・画像提供)

尼崎でロケが行われた映画

昭和13年(1938)竣工の尼崎市立高等女学校の校舎をリノベーションした尼崎市立歴史博物館では、前身の尼崎市立文化財収蔵庫時代に「ALWAYS 三丁目の夕日'64」と「焼肉ドラゴン」の2回、映画のロケが行われました。また、令和6年(2024)公開の「あまろっく」では尼崎市内外各所でロケが行われました。尼崎でロケが行われた映画について、ポスターや小道具、PR映像等により紹介します。



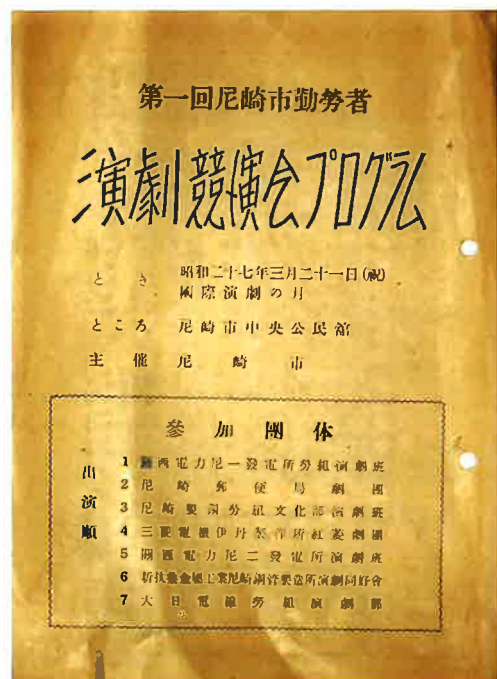
平成23年(2011)に尼崎市立文化財収蔵庫玄関前で行われた「ALWAYS 三丁目の夕日'64」のロケの様子



平成29年(2017)に尼崎市立文化財収蔵庫正門前で行われた「焼肉ドラゴン」のロケの様子

尼崎市演劇祭の歩み

戦後、労働者の文化活動として尼崎では演劇も盛んとなり、昭和27年(1952)には、尼崎市主催による第1回尼崎市勤労者演劇競演会が尼崎市立中央公民館で開催され、尼崎市内の企業等から7団体が出演しました。翌年からは高校演劇部も参加し、昭和47年(1972)には尼崎市演劇祭と改称しました。尼崎市演劇祭は昨年第73回を開催し、国内最古級の市民演劇祭としての歴史と伝統を継承しています。その歩みを紹介します。



第一回尼崎市勤労者演劇競演会プログラム 昭和27年(1952)